

令和6年度第2回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和6年9月12日（木）15:00～16:00

場 所 事務局第一会議室及びMicrosoft Teams 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、野中理事、木崎理事、市川理事
利根委員、平本委員、堀光委員、山名委員

[Teams] 石井理事、中村理事、萩原委員、真下委員、山口委員、吉田委員

陪席者 [会議室] 小俣監事、山中監事、水村人文社会科学研究科長、宮田教養学部長、
戸部教育学部長、重原理工学研究科長、若狭理学部長

[Teams] 市橋副学長、田代副学長、川合副学長、福島副学長、伊藤副学長、
井原経済学部長、奥井工学部長

○ 令和6年度第1回議事要録の確認について（資料1）

令和6年度第1回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 令和6年度国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等の報告について

学長から、資料2に基づき、本学における国立大学法人ガバナンス・コードの適合状況等に関して、事前意見照会により提出された学外委員からの意見等について報告があり、審議の結果、承認された。

2 新役員の号給について

木崎理事から、資料3に基づき、令和6年9月1日付けで着任した新役員の号給について説明があり、審議の結果、承認された。

○ 報告事項

1 令和7年度概算要求について

木崎理事から、資料4に基づき、令和7年度概算要求における本学からの提出事項の状況について報告があった。

☆ 概算要求に当たっては、大学の現状説明や要求事項の優先順位の意向など、大学の意見を文部科学省に伝える機会はあるのか。

△ 要求事項により異なるが、基本的には文部科学省と相談しつつ、決定している。

2 令和5事業年度財務諸表の文部科学大臣承認について

木崎理事から、資料5に基づき、令和5事業年度財務諸表が令和6年8月30日付けで文部科学大臣の承認を得た旨報告があった。

○ その他

1 埼玉大学の最近の動向について（他機関との連携状況）

学長から、机上資料に基づき、本学を取り巻く最近の動向及び機能強化に向けた地域他機関との連携状況と今後の展開について説明があった。その後、石井理事から研究面の、次いで野中理事から教育面の連携の詳細についてそれぞれ説明があり、種々意見交換が行われた。

☆ 「今後の展開」で触れられていた東洋大学に視察に行く機会があり、そこでの取組を拝見して、学問の延長に実学があることを改めて認識した。企業もCSRからさらに踏み込んで、SDGsに繋がる研究を求めており、それを担う人材育成が重要なのではないかと思う。埼玉県と貴学で取り組んでいる知事と学生の意見交換による政策提言も、学問を行政に活かすという意味ではそれに近いが、外部とタイアップしながら実装に繋げていくことで教育研究の幅も広がると思うので、様々な機関と連携を進めていることは非常に良い取組だと感じた。

△ 企業との連携による課題解決型のPBL (Project Based Learning) の授業も学生にとって非常に良い経験となっている。ご指摘のとおり、学問をどのように社会に応用していくのかということについても教育の観点として取り組んでいきたい。

☆ 大学間が相補的に連携することで、学生の教育の充実や新たな研究の展開も期待できるため、非常に良い取組だと感じた。

マッチングによる共同研究に関して、理化学研究所でも様々な大学と共同研究を行っているが、研究期間が終了すると関係が切れてしまうことに反省があった。良いものについては、少し長期的に連携が確保できるよう互いの機関に連携ラボを設置することや、人事の観点も配慮できるとより充実するのではないかと思う。

また、スタートアップ支援の取組についても、地域の活性化という観点から重要なアプローチだと考える。理化学研究所の取組を紹介すると、保有している先端の研究設備を、特にディープテック系のスタートアップに開放して成長の糧としてもらえるようなプログラムを開始することを予定している。貴学のスタートアップ支援のスキームとしても活かせると思うので参考にいただければと思う。

2 次回日程（令和6年11月28日（木））

学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上